

## 中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究

The Origin of the Tribal Society in the Near East:  
Comprehensive Study of the Pre- and Proto-historic  
Nomadic Cultures in the Arabian Peninsula



課題番号：19H05592

藤井 純夫 (FUJII Sumio)

金沢大学・国際文化資源学研究中心・特任教授

研究の概要：本研究の目的は、アラビア半島各地の先原史遊牧民遺跡の包括的調査を通して、中東社会の本源とも言える遊牧部族社会の起源とその史的特質を、明らかにすることである。そのため、考古学のみならず、動物考古学、形質人類学、生命科学、文化人類学、岩絵・碑文学などを総動員し、コンパクトながらも包括的なアプローチを試みる。

研究分野：アジア考古学

キーワード：アラビア半島、遊牧部族、新石器時代、青銅器時代

### 1. 研究開始当初の背景

中東社会の最大の特徴は、1) シュメール、アッカド、アッシリア、バビロニアの古代文明から、古代・中世のペルシア、ローマ、ビザンツを経て、近代のオスマン・トルコ、大英帝国に至るまで、様々な性格を持つ大文明の傍らにあって、そうした大文明に否応なく鍛えられた、その意味で他地域の遊牧民とはまったく異質な遊牧部族社会を、今日もなお都市・農村社会の外縁に併有していること、2) しかも、両社会の間に人的・物的な環流のチャンネルが常時作動し、そのため、二つのよう一つ、一つのように二つの、他に類のない融通無碍な重層的な社会構造を有していることにある。

では、この特質はどのように形成されたのか。「肥沃な三日月弧」内側からの類推・敷衍では、この問題は永遠に解明できない。今、求められているのは、「肥沃な三日月弧」外側の大乾燥域に踏み込み、先原史遊牧民の足跡を丹念に拾い集めること、そしてそこから中東遊牧部族社会の起源論を再構築することであろう。中東社会の最も内奥に潜む、中東社会ならではの史的特質。それを探り当てたいというのが、本研究の学術的「問い」である。

### 2. 研究の目的

本研究は、アラビア半島先原史遊牧民遺跡の包括的調査とこれによって出土する人骨・

動物骨などの資料分析を通して、1) 中東部族社会の起源問題を、従来の類推・敷衍レベルの議論から、正確な年代と具体的な遺跡名を伴う実質的論議へと誘導し、2) 中東社会の特質をその本源とも言える遊牧部族社会の形成過程にまで遡って解明すること、を目的とする。

### 3. 研究の方法

上記目的の達成のため、以下三つの段階的研究課題を設定した。

課題① 遊牧化の When, Where, What (編年プラットフォームの構築)：遊牧化 7000 年の歴史を一つのシークエンスとして捉えるには、個々の事象を時系列に沿って並べると同時に、地理空間に応じて相対配置するための、編年プラットフォームの構築が必須となる。

課題② 遊牧化の How, Why (遊牧化過程の動態研究)：分析班の協力を仰ぎ、遺跡調査で出土した人骨・動物などの資料分析を進めると共に、その成果を編年プラットフォームに載せて遊牧化の動態を追跡する。

課題③ 先原史部族制遊牧社会の特質：上記二課題の成果を基に、この難問に挑む。特に、集落の遺構構成、墓制、威信財の成立と分布、羊毛刈り石器 (Tabular scraper) の生産と流通、碑文・岩絵に刻まれた部族マークなどの視点から、部族社会の輪郭形成や隣接定住域との相互依存などの諸問題に取り組む。

#### 4. これまでの成果

考古班1（ヨルダン、サウジアラビア内陸部担当）は、ヨルダン南部ジャフル盆地に位置する銅石器時代の複合遺跡、ハラアト・ジュハイラ2の線状集落とその背後に広がる墓域・祭祀域の総合調査を実施した。その結果、集落・墓域複合体を運営していた半定居農耕牧畜民が、ジャフル盆地における乾燥地適応の過程で、象徴的な祭祀施設だけを運営する遊牧民に変質したことを捉えた。これは、新石器時代に続く第二次の遊牧化である。この時の遊牧化には、羊毛や乳製品など、家畜の第二次産品の利用が伴っており、この時点で家畜中心の本格的遊牧生活が始まったことが判明した（下表）。

Period	Hijaz (Saudi)	(settlement) Jafr (Jordan)	(others)	Bishri (Syria)
PPNA ca. 9000	?	Harrat Juhayra 205	?	Wadi Hajana 1
PPNB 7000	Wadi Sharma 1	Harrat Juhayra 202 移牧の始まり（家畜・水利技術の導入） Establishment of outpost complex (Pastoral transhumance) PPNB outpost complexes Wadi Abu Tulayha Wadi Ghuwayr 17/106 Jabal Juhayra (J. 3)	PPNB barrage systems Wadi Ruweishid ash-Sharqi Wadi Nadiya 1-2 PPNB fire workshops JF-0106 etc.	Wadi Hajana 1 (L. 1)
(PPNC)		Shift from outpost complex to campsite (Incipient pastoral nomadism)		
LN 4800	?	Khashem 'Arfa	LN barrage systems Eastern Jafr sites Pseudo-settlements 'Awja 5 Harrat Juhayra Qa' Abu Tulayha (J. 3, north) 'Awja 1	Fakat Bidevy 1
Chal. 3700	Wadi Sharma 2 al-Barqa' 1 Umm Qunaym 1 Wadi Muhannaq 1-2 Wadi Ghubal 1-5	Jabal Juhayra (J. 2) transitional stages 遊牧化の加速（家畜二次産品の利用） Harrat Juhayra 2	Burial fields Qa' Abu Tulayha (J. 3, south) Harrat Juhayra 1-3 Harrat Burma Harrat Sayyria 'Awja 3	Fakat Bidevy 2 Jabal Qala'
EBA 2000	Wadi Sharma 6	Convergence into large-scale burial fields (Full-scale pastoral nomadism)	Flint quarries and caches JF-0210 etc. Wadi Qusayr 173 Burial fields Tor Ghuwayr 1-3 Wadi Burma North Wadi Burma South Qa' Abu Tulayha (J. 2) Talat 'Ubayda	?
MBA 1550	?	遊牧化の完成（遊牧部族の形成）		Wadi Hedja 1-4 Tor Tahum 1 Wadi Hayuz 1-2 Wadi Jayratun 1

一方、サウジアラビア北西部のワディ・グバイ遺跡群の発掘調査では、遊牧部族社会の形成過程を墓制面から明らかにした。併せて、上記遺跡群周辺の碑文・岩絵遺跡を調査し、遺跡の地形測量と碑文・岩絵の写真撮影を実施した。

考古班2（ペルシア湾岸域担当）は青銅器時代の大型墓域ワディ・アッ＝サイル遺跡を発掘し、ペルシア湾岸域における遊牧部族形成期の墓制データを収集・分析した。

考古班3（紅海沿岸域担当）はハウラー遺跡の発掘とその後背地遊牧部族民の碑文・岩絵調査を実施し、紅海沿岸域における初期イスラム都市社会と周辺遊牧部族の関係に関する考古学的データを収集した。

分析班のうち、本郷（動物考古学）は、考古班1が過去に調査したハシムム・アルファ遺跡（ヨルダン）出土の動物骨の種同定を実施

し、遊牧化初期段階における多様な動物利用の実態を明らかにした。岡崎（形質人類学）は、考古班1が現在調査しているワディ・ムハラック、ワディ・グバイ両遺跡群（サウジアラビア）から出土した人骨の分析によって、部族形成期における遊牧民の社会構造に関する基礎データを収集・整理した。寛張（人骨・動物骨の同位体分析）は、考古班1が調査しているハラアト・ジュハイラ2号遺跡（ヨルダン）で出土した埋葬人骨の歯エナメル質の炭素・酸素同位体分析を実施し、異質集団間の人口移動の可能性を明らかにした。赤堀（文化人類学）は、現代遊牧民社会における「血讐と醜聞」問題に焦点を当てて、遊牧部族の特異な風習と社会構造に関する研究を進めた。

#### 5. 今後の計画

考古班1～3では2021年度からの3年間に計16回の遺跡調査を予定していたが、コロナ禍による1年間の中断を補うため、これを21回に拡大する。考古班1は、アラビア半島中部スマーマ地区の発掘に着手し、半島内陸部の遊牧化過程に関する研究を仕上げる。考古班2は、バーレーンに加えてカタールでの遺跡調査に着手し、ペルシア湾岸域における遊牧化過程をさらに追跡する。考古班3は、港湾都市遺跡ハウラーの発掘調査とその後背地遊牧部族民の碑文・岩絵調査を継続実施し、紅海沿岸域における遊牧部族の形成過程を都市との相関性の中で追跡する。分析班はこれから新規調査で出土した人骨・動物骨などの資料分析を進める。なお、最終年度には、一連の研究成果をシンポジウムの開催と著書の刊行によって総括する。

#### 6. これまでの発表論文等（受賞等も含む）

Fujii, S. (in print) Transition in Settlement Form at the Wadi Sharma Sites and its Correlation with Pastoral Nomadization in NW Arabia. In: M. Luciani (ed.), *Mobility in Arabia*. Wien: Austrian Academy of Sciences Press.

Fujii, S. (2020) Pastoral nomadization in the Neolithic Near East: Review from the Viewpoint of social resilience. In: Y. Nara and T. Inamura (eds.), *Resilience and Human History: Multidisciplinary Approaches and Challenges for a Sustainable Future*, 65-83. Singapore: Springer Nature Singapore. DOI: [https://doi.org/10.1007/978-981-15-4091-2\\_5](https://doi.org/10.1007/978-981-15-4091-2_5)

Fujii, S. (2020) Late Neolithic cultural landscape in the al-Jafr Basin, southern Jordan: A brief review in context. *Studies in Ancient Art and Civilization* 24: 13-32. DOI: <https://doi.org/10.12797/SAAC.24.2020.24.01>

#### 7. ホームページ等

[http://crs.w3.kanazawa-u.ac.jp/project/fujiisumio/index\\_5.html](http://crs.w3.kanazawa-u.ac.jp/project/fujiisumio/index_5.html)